



プロジェクト名称

いくべっ！福島支援プロジェクト

プロジェクト活動概要

東日本大震災から2年が経過し少しずつ復興のめどが立ってきているが、まだまだ時間がかかるのが現状である。特に福島県は放射線量という目に見えないものを相手にしており、他県と比較しても復興の遅れが顕著である。また福島県の農家の方々は放射線量を下げるために様々な努力や工夫を行っているが世間には広く知られていないのが現状である。このことが、市場に出回っている福島産の食品は安全であるのに、消費者に嫌悪されてしまう原因の一つとなっている。

そこで私たちは風評被害にスポットを当てて、消費者に正しい情報を発信していき、消費者と生産者の橋渡しを行っている。具体的には、様々なイベントに参加し福島産のものを販売しながら呼びかけをしたり、自分たちで企画した福島ツアーを実施するなどしている。

また被災地にはライフラインが整っておらず家に帰れない人、支援の手を必要としている人がまだまだたくさんいるが、震災から長い時間が経ち日常的に震災に関するニュースを聞くことが少なくなってきた。そこで記憶の風化を止めるため、風評被害のような目に見えず長期的に対処する必要のある問題だけではなく、目に見え、かつ早急な対処を必要とする、地震や津波の被害にあった浜通り地方での実地作業も行っている。

活動状況報告&活動写真など 活動期間：2013年6月15日～9月30日

○第1回現地視察 5月11日

震災から2年あまり経つことになるが、その間に現地・福島県では地元の農産物に対するの感じ方・考え方がどのように変化していったのかを確認するために、私たちは現地視察を行うことにした。今回の現地視察では、福島市及び伊達市にある「みらい百彩館んめ〜べ」「農家の関根幹男さん宅」「飯坂温泉」の3か所を選定した。

(1)JA（農協）から見て ーみらい百彩館んめ〜べー



ヒアリングの様子



放射線量測定器



放射線量検査場

福島県北部に位置する伊達市にある「みらい百彩館んめ〜べ」では、農産物に関する風評被害の現状調査に加え、農産物の放射線量を測定する検査場を見学させていただいた。

んめ〜べの高橋店長によると、昨年は多くの方々からの支援があったため、農産物の売り上げは回復しつつあるという。しかし、今年に入ると前年比から見て、支援者が約10分の1程度にまで減少してしまったという。そのため、これからが本当の正念場だと気を引き締めていた。

また、農産物の放射線量がどのようにして検査されているのかを見学させていただいた。以前は検査場の数が少なかったため全ての農産物を検査できなかったが、現在では検査場の数を増やしたことで一つひとつ入念に検査している。安全性は他県産よりも自信をもって出荷しているの、こ



れからも地元だけではなく都市部にも積極的にアプローチしていくと意気込んでいた。

(2)生産者から見て 一関根幹男さん一

昨期の視察でもお世話になった関根幹男さんのお宅に伺い、改めて農産物への風評被害についてのヒアリングを行なった。

関根さんによると、農産物の売り上げは約7割程度まで回復したという。しかし、野菜の売り上げの伸び悩みや、放射線がたまりやすい山間部の農産物に対する厳しい出荷制限など、依然として多くの課題が残っているのも事実である。苦しい状況に立たされているが、農家の方々は今後も一丸となって協力していくと前向きな姿勢であった。

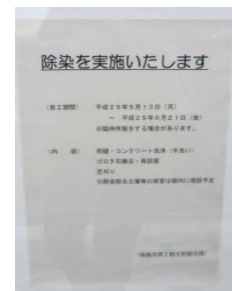
(3)観光業者から見て 一飯坂温泉一



飯坂温泉 温泉街



堀切邸



除染の張り紙（堀切邸にて）

昨期の「いくべっ！福島ツアー」で訪れた飯坂温泉に出向いて、お土産屋さんや施設の方々に、観光面での風評被害について伺った。

観光者数は、震災後の1年間はほとんど訪れていなかったが、その後は上昇傾向にあるという。しかし、依然として震災前よりも少ないのは現状である。実際に観光者も日帰りの方々が多く、宿泊客はあまり見られないという。

また、右上の写真は飯坂温泉内にある旧民家の「堀切邸」という観光名所で掲示されていたもので、現在でも定期的に除染していることがうかがえる。

●まとめ

ヒアリングの結果は以下の通りである。なお風評被害の傾向を比較できるように、合わせて2011~12年の結果も一部示しておく。

【2011年】

- ・桃の市場価格＝例年比から見て約10分の1程度
- ・高压洗浄機を用いて、一気に除染
- ・福島県の農産物を購入するが、帰宅途中で高速道路のゴミ箱に捨てるという「応援買い」が見られた

【2012年】

- ・農協に検査を依頼して、出荷前に計2~3回は検査
- ・一品目ごとに検査を実施
- ・地元紙＝放射線量の検査結果を記載
→一方で関東圏では報道されていない

【2013年】

- ・農産物の売り上げは約7割程度まで回復
- ・検査場の増設＋農産物は全て検査済み＝安全性◎
- ・意識が薄れつつある→支援者の大幅な減少



○東大宮サマーフェスティバル 8月2～3日

今年も、以前から繋がりのある福島県伊達市のみらい百彩館「んめ〜べ」から福島の食材を仕入れ、キュウリとトウモロコシを販売した。その販売を行うと同時に、買っていただいたお客様に写真撮影をお願いし、それを複数集め笑顔ポスターというものを作成した。

このポスターは、「んめ〜べ」やご協力頂いた福島の農家の方々に送らせていただき、消費者の笑顔、おいしく食べたという気持ちを伝えるということを行った。結果的に、一番の目的である、東大宮の人たちに福島の食材を共有するという事は達成できた。

<トウモロコシとキュウリの販売>

キュウリ、トウモロコシの販売は大変大盛況で、自分たちの予想をはるかに超える売れ行きだったため、すぐに完売することができた。

販売しているときには、去年も活動していた自分たちを覚えていて鼓舞してくださったり、福島出身の方が親しげに自分たちに話しかけてくださったりと、応援してくれるような声が多々あった。



<笑顔撮影>



複数集める



<笑顔ポスター>



○麻布十番納涼祭り 8月24～25日

今年も東京・麻布十番の商店街で開催される納涼祭りに福島県会津番下町の方々と福島の情報や食べ物を知ってもらうために私たちはそのお手伝いとして参加した。販売物は、去年も販売した日本一となった地元の名酒「飛露喜」と馬肉を使った「さくら焼き肉」に加え、今年は新しく豚肉を使った串焼きの計三品だった。祭り当日では福島県産だからといって避けられるようなことは全くなく二日間とも売れ行きも良く、好評の声も聞こえた。このことから福島県産の食べ物に対する不信感は薄まってきているのではないかと思われる。

この活動を通して、実際に福島の方々とこういった活動をすることでただ文字だけで福島の食べ物は安全と謳うより、消費者に伝わりやすいと感じた。今後もこういった機会を積極的に増やしていきたい。



<会場>



<販売の様子>



○その他

福島ツアーの下見・アンケート調査の実施・インターネットポータルサイト「goo」さんとの連携

今後の活動計画、目標、意気込みなど

今後行う予定の主な活動は3つある。

1つめは10月に実施予定の「いくべっ！福島ツアー」である。これは福島への日帰りツアーで、一般の方に福島の良さを肌で感じていただくことが目的である。私たちが視察で得た情報をこちらに持ち帰り発信することも重要だが、実際に現地に足を運び、現地でしか味わうことの出来ない福島の良さを感じていただくことも、風評被害を低減するためにはとても重要だと考えている。またこのツアーへの参加が、参加者の皆様がこれ以降福島を訪れるきっかけになって頂けるようにしたいとも考えている。

2つめは11月の「芝浦祭」への出店である。今年は福島のお米や野菜を使用して雑炊を販売する。福島から離れた関東の消費者の方々に福島産のものを口にして頂くことが目的である。またただ販売するだけではなく、販売に伴い視察で得た情報など福島に関することをお客様に伝えていく、情報発信の場としても活用するつもりである。

3つめは来年3月には「3.11講演会」を計画している。これは被災して現在東京で避難生活を行っている方を登壇者として招き、当時や避難生活の様子について実際にお話ししていただく予定である。やはり当事者の方の口から直接お話をして頂くことで、よりリアルかつ大規模な情報の発信が可能になる。この講演会は新たな試みであるため、告知の段階から力を注いでいきたい。

他にも視察やイベントへの参加などを行う予定だが、今後の主な活動は以上の3点である。いずれも「関東の方に福島について知って頂き、震災の記憶の風化を防ぐ」という目的が大前提である。震災から時間が経つにつれ震災の記憶や意識が風化してしまっている中で、私たちの活動を通じて、もう一度あの未曾有の大震災について考え直すきっかけを提供していく。

(右：福島ツアーの告知ポスター)

(下：集合写真)



いっくべっ！
福島ツアー！
第2回

こんにちは！芝浦工業大学 学生プロジェクト「いくべっ！福島支援プロジェクト」です。
私たちは福島県の風評被害の低減を目標に日々活動しています。
昨年引き続き、多くの方に福島に実際に訪れてもらい、福島の良さ、美しさを知って頂くために、「日帰りツアー「いくべっ！福島ツアー！」」を企画しました！是非ご参加ください！

ツアー日 2013年 10/13(日)	先着 30名様	交通費 無料!! <small>※食事代・果物代別途</small>
 農作物直売所 「んめ〜べ」見学 <small>実際に行われている放射線量検査を見学します</small>	 果物狩り <small>福島の美味い果物をお楽しみください！</small>	 温泉 <small>福島は温泉地としても有名です。温泉に入って旅の疲れを癒しましょう！</small>

お申込み・お問い合わせ方法
 ①メールでのお問い合わせ bf13011@shibaura-it.ac.jp
 ②電話でのお問い合わせ 080-4370-5254 (担当・伊藤)
 ③Facebookでのお問い合わせ
 「いくべっ！福島支援プロジェクト」にメッセージ
 詳しい情報は③のFacebookで更新します！ご確認ください！

※写真はイメージです。※スケジュールに変更がある場合がございます。ご了承ください。